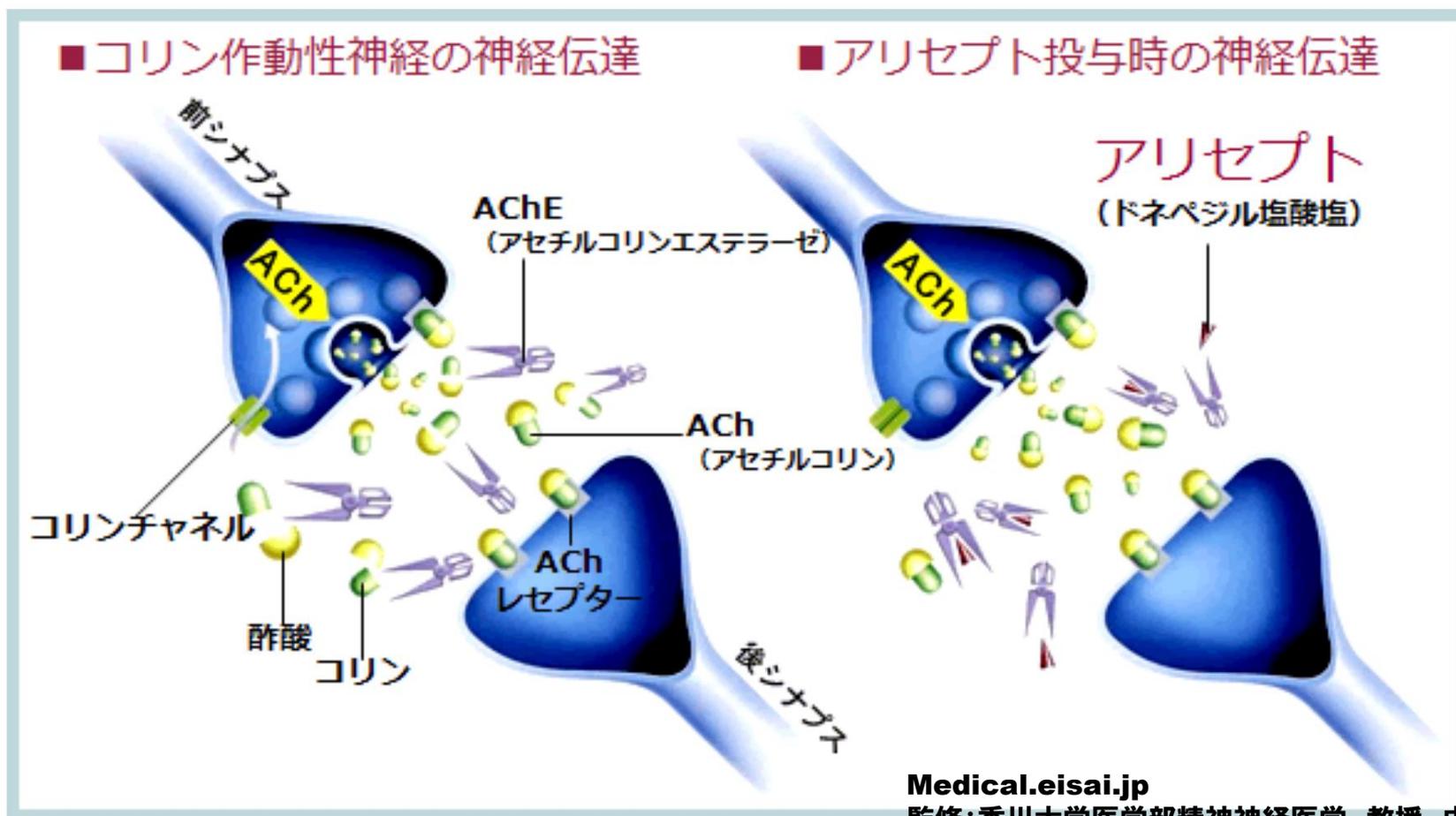


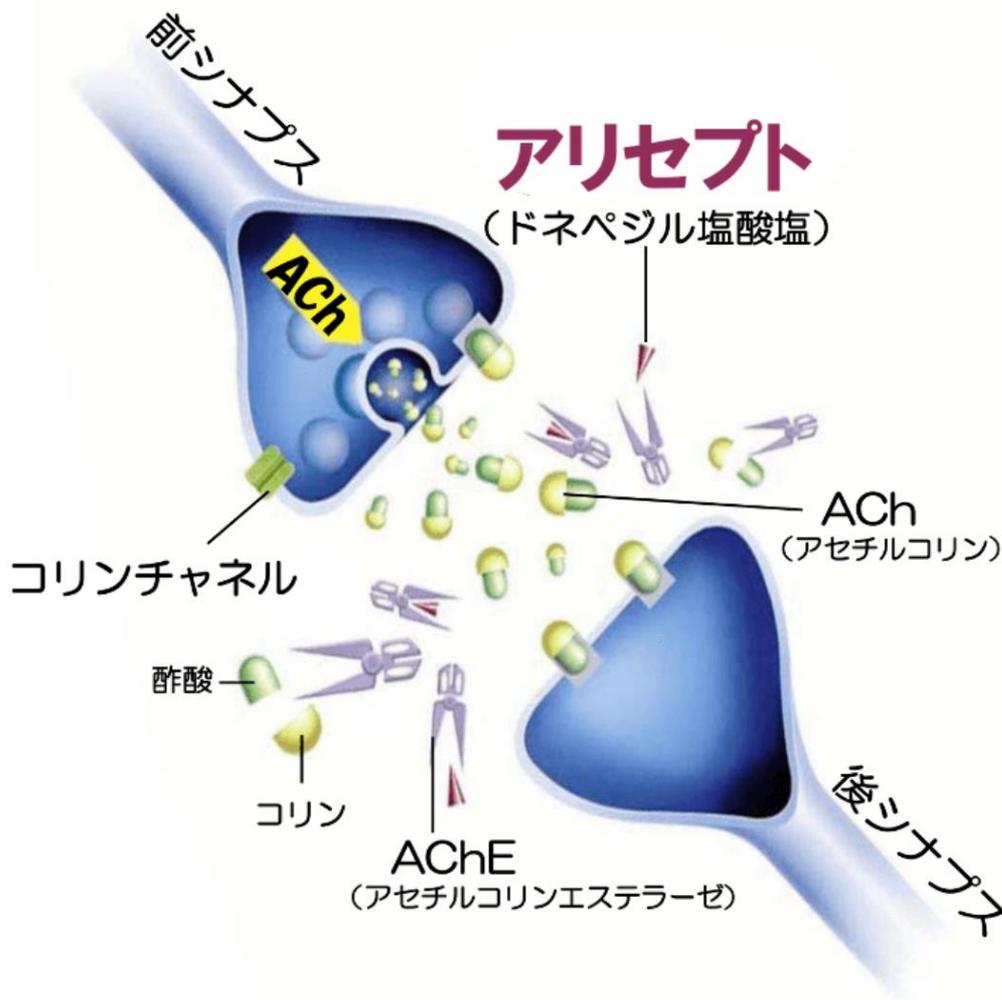
作用機序

アルツハイマー型認知症では、脳内コリン作動性神経系の顕著な障害が認められています。

ドネペジル塩酸塩（アリセプト）は、アセチルコリン（ACh）の加水分解酵素であるアセチルコリンエステラーゼ（AChE）を可逆的に阻害することにより、AChの分解を抑制し、作用部位（脳内）でのACh濃度を高め、コリン作動性神経の神経伝達を促進します。



アリセプト投与時の神経伝達



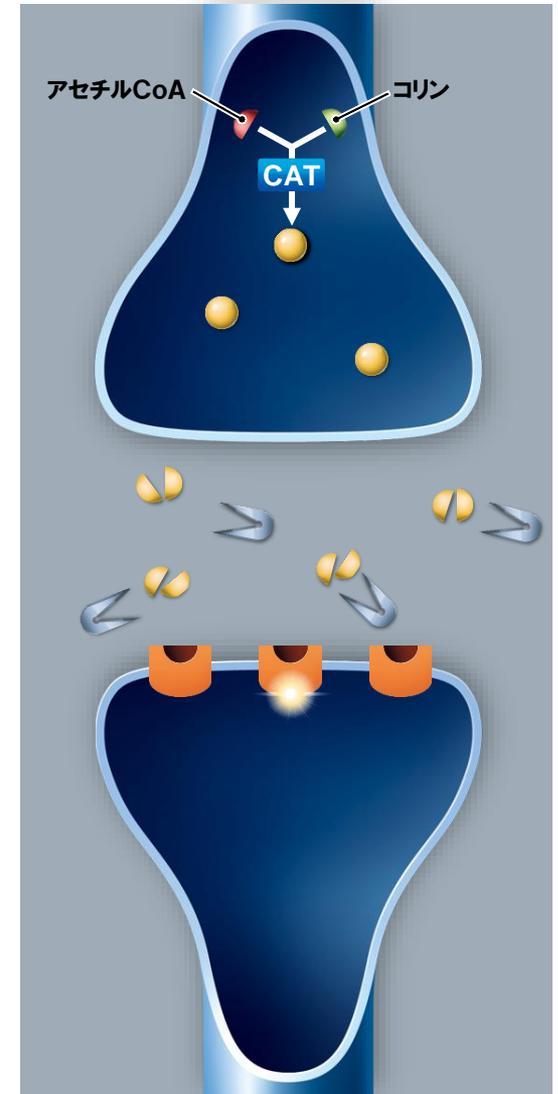
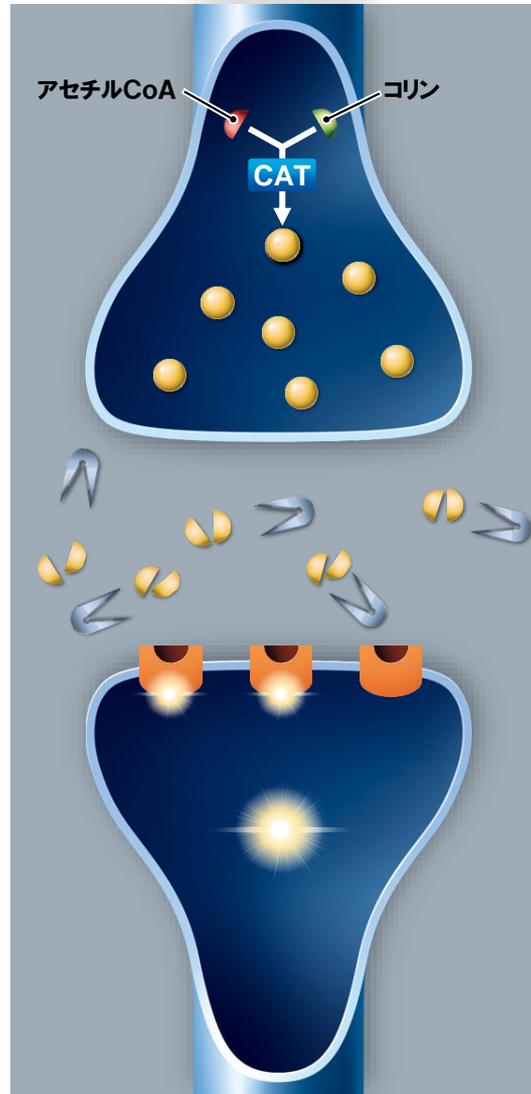
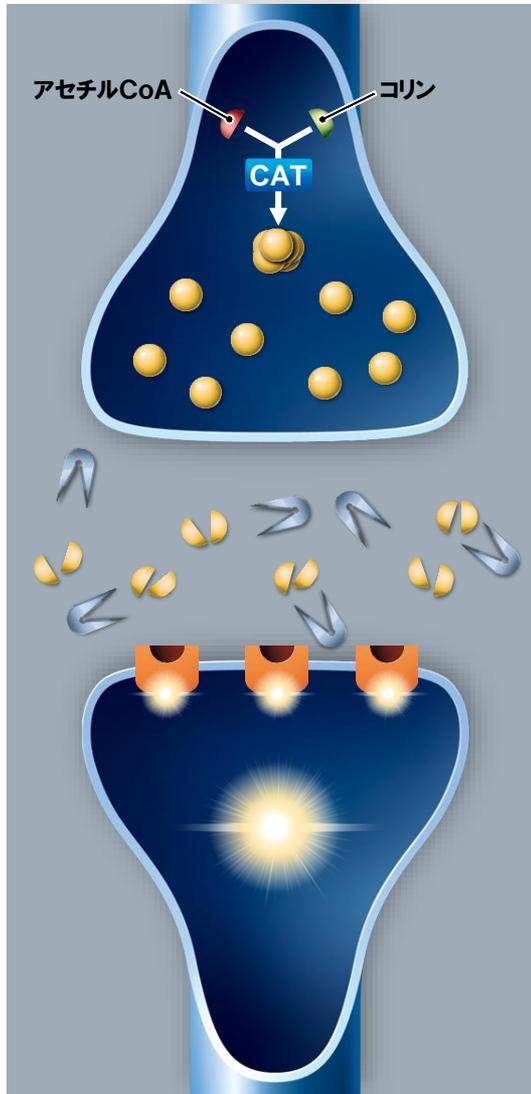
- 脳内のアセチルコリンの分解を抑制しアセチルコリンの濃度を高めて神経の伝わりを良くする作用があります。
- アルツハイマー型認知症の症状の進行を抑えるお薬です。認知症そのものを直す効果がありません。

アルツハイマー病とコリン作動性ニューロンの関係

正常

軽度～中等度AD

高度AD



CAT コリンアセチルトランスフェラーゼ

● アセチルコリン

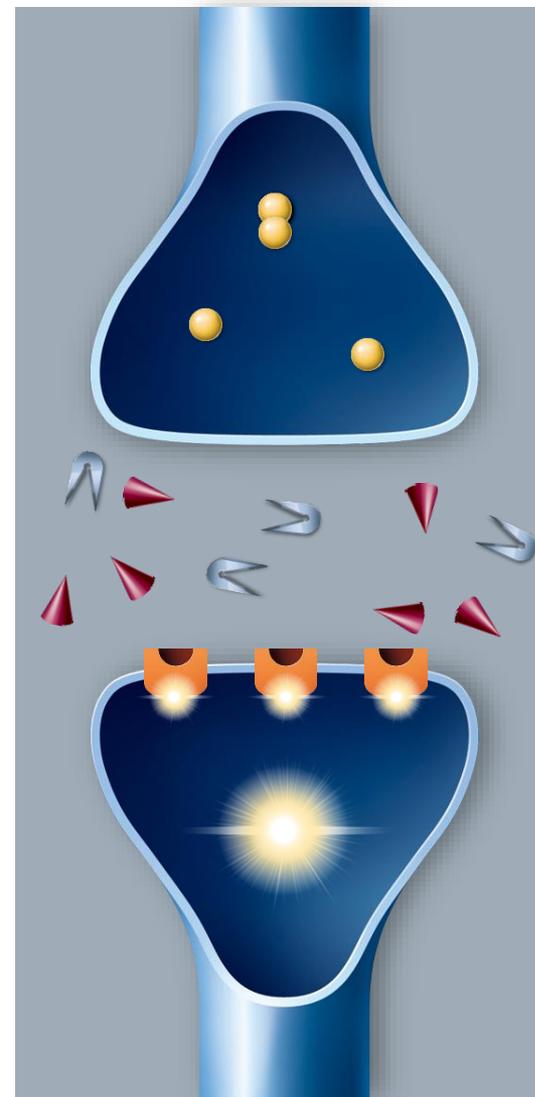
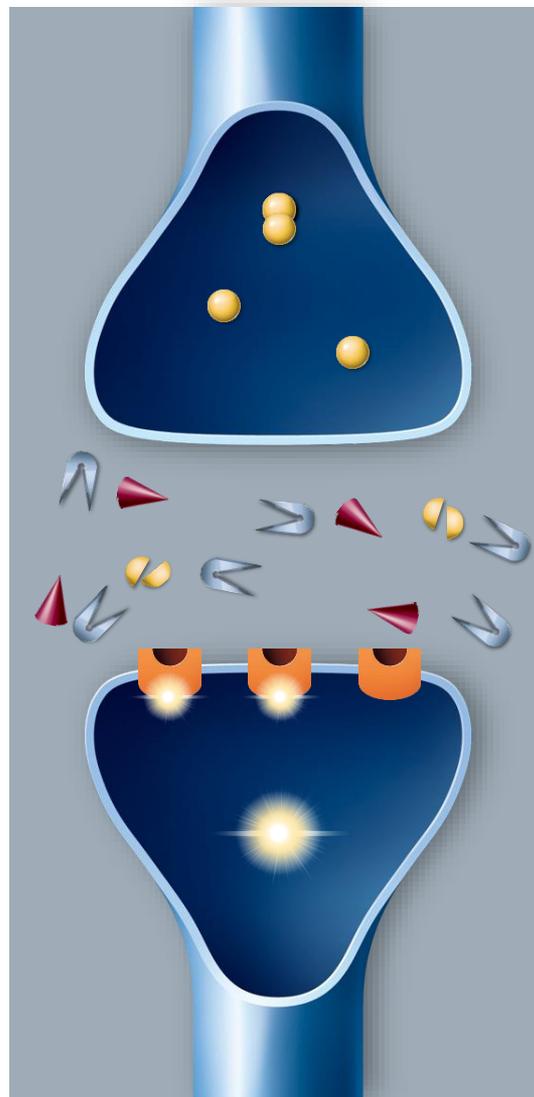
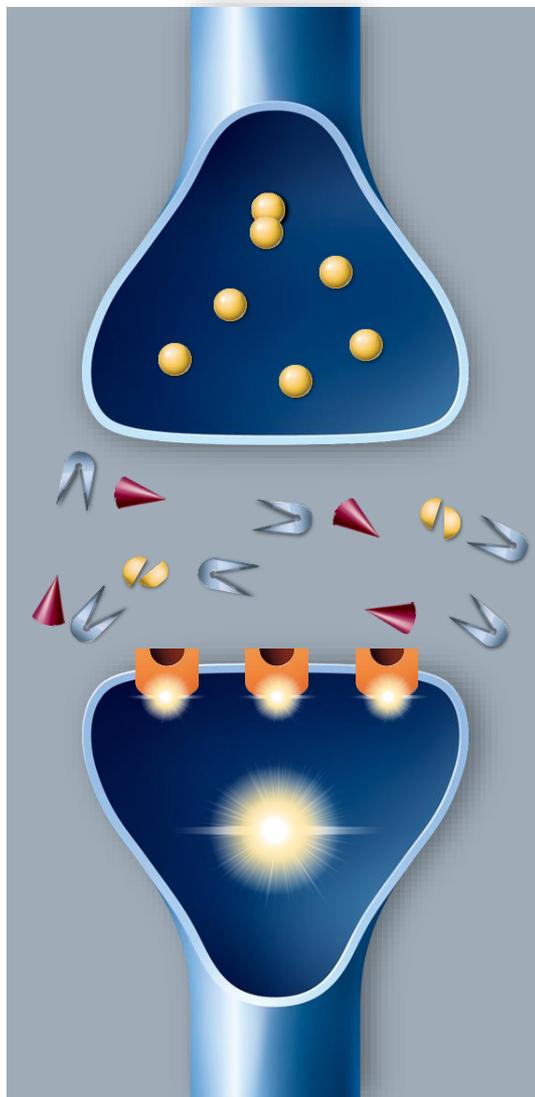
➤ アセチルコリンエステラーゼ

アルツハイマー病とアリセプトの作用機序

軽度～中等度AD+アリセプト5mg

高度AD+アリセプト5mg

高度AD+アリセプト10mg

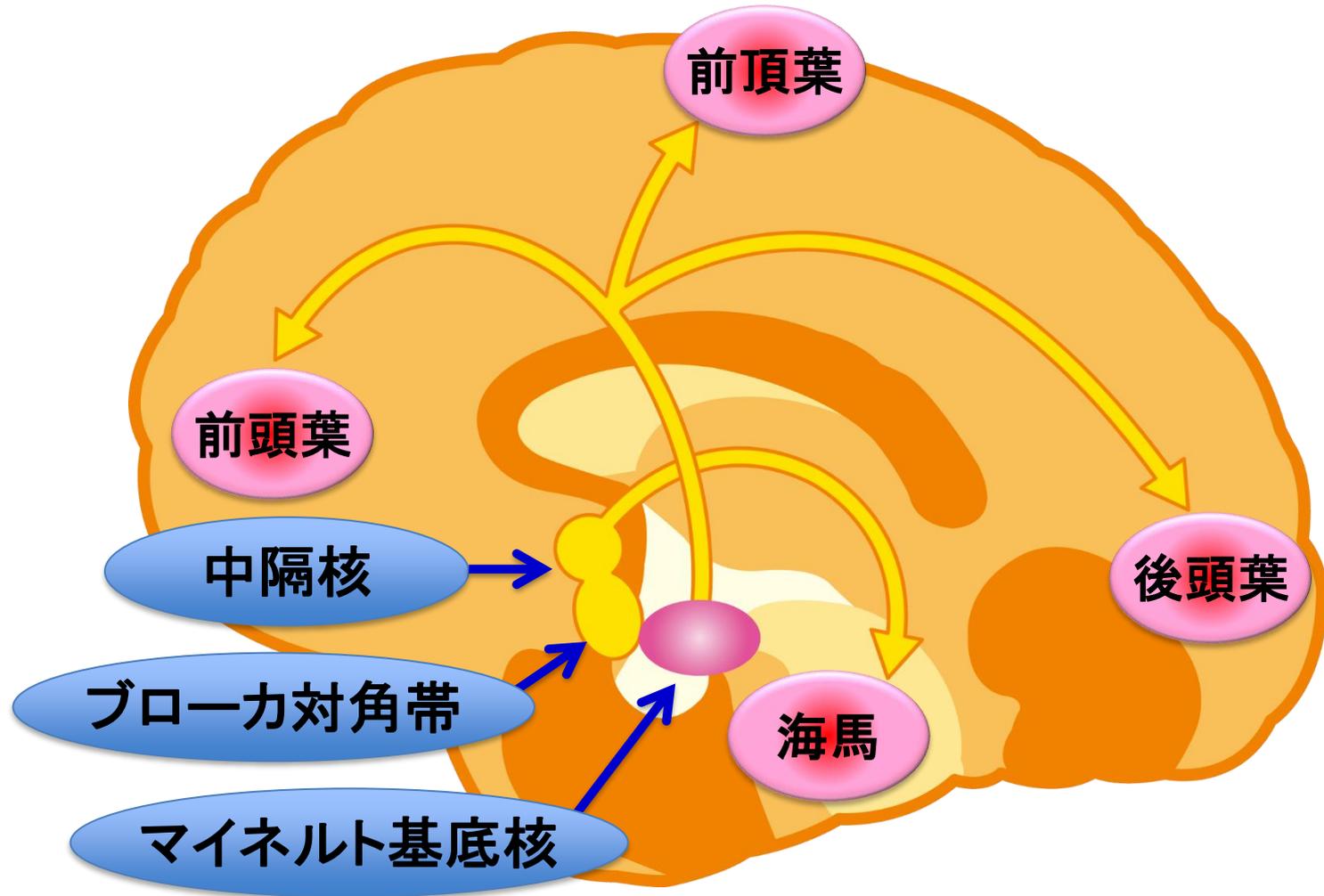


● アセチルコリン

➤ アセチルコリンエステラーゼ

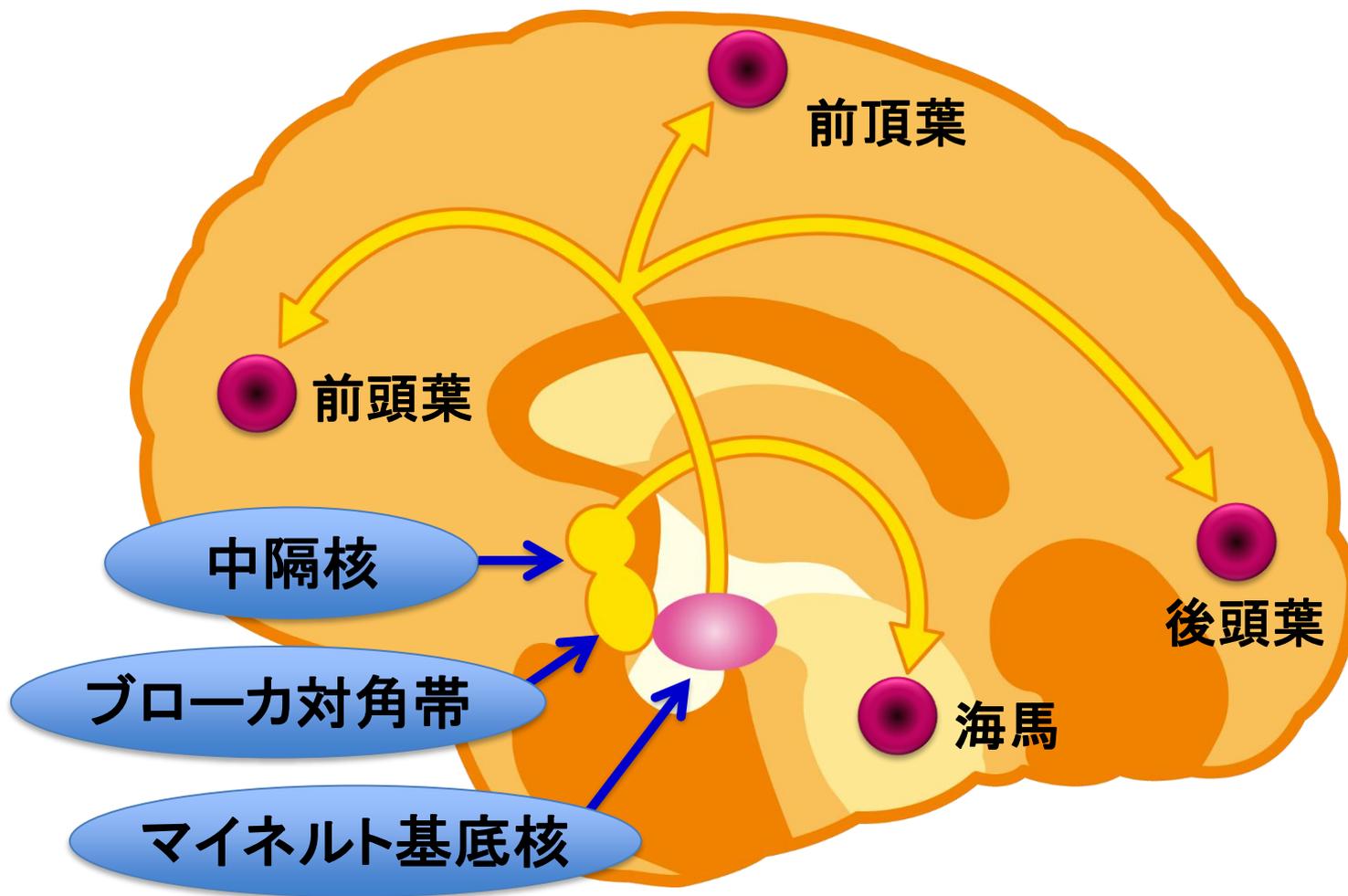
▲ アリセプト

アセチルコリンは脳全体を活性化する

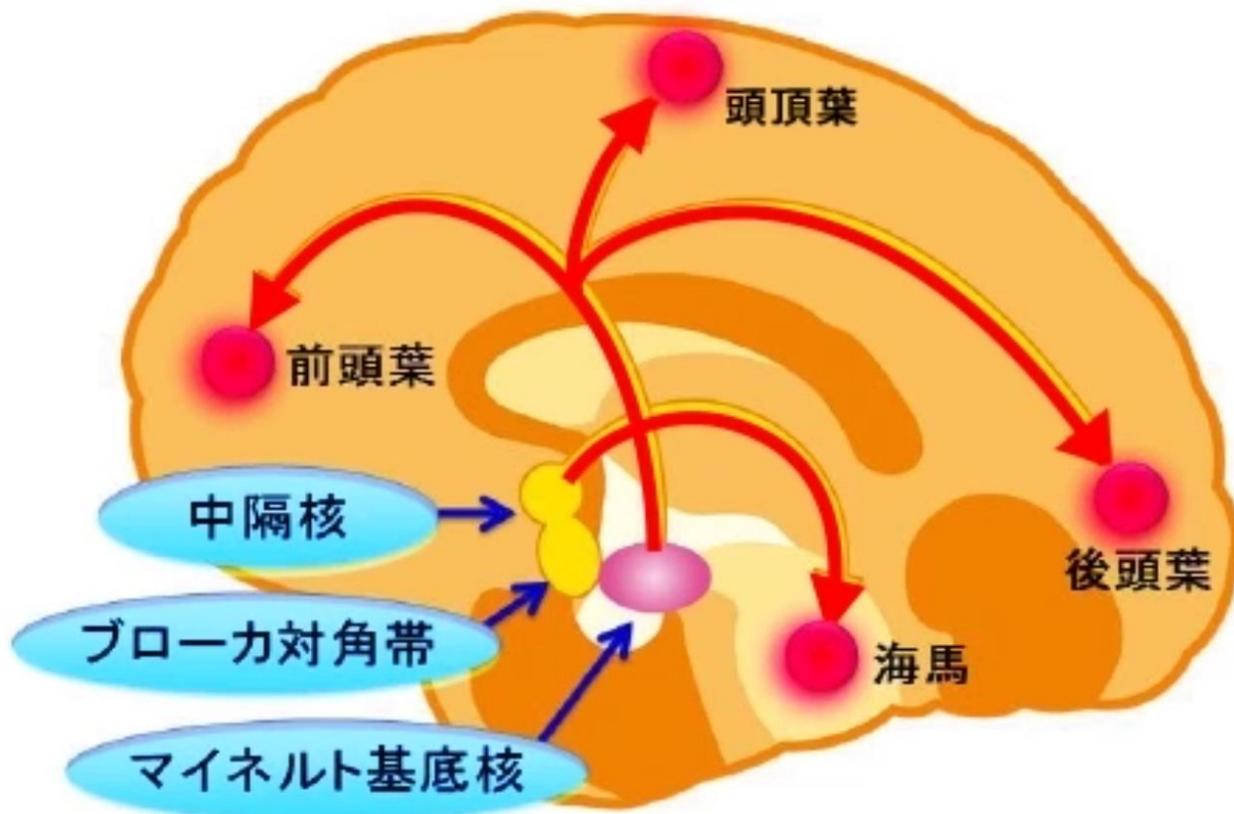


- アセチルコリンは、記憶・学習にかかわる神経伝達物質です。
- アセチルコリンは、マイネルト基底核から脳の全体へ投射され、脳の活動性を維持しています。

アセチルコリンが減少すると脳全体の活動性が低下する



認知症では記憶や学習にかかわっているアセチルコリンが減少し脳の活動性を低下させます



- アセチルコリンは、記憶・学習にかかわる神経伝達物質です。
- アセチルコリンは、マイネルト基底核から脳の全体へ投射され、脳の活動性を維持しています。